

「種蒔きのたとえのヘブル的考察」

マタイの福音書 13:3~9

はじめに

イエシュアの話された数々のたとえ話。そこには「天の御国の奥義」が隠されているとイエシュアは言われました（マタイ 13:11）。そんなたとえの一つである「種蒔きのたとえ」。道端、岩地、茨の間、そして良い地に落ちたそれぞれの種がどうなったか、私たちは普通このたとえを、御言葉を信じる度合い、レベルを表したものと解釈しています。そしてこのたとえを聞いた時に自分、あるいは他の信者の信仰の度合いを測り、一喜一憂するのです。そんなことのためにイエシュアはたとえを話されたのでしょうか。それが「天の御国の奥義」なののでしょうか。イエシュアのたとえには、まだ他に隠されたメッセージ、まさに「奥義」と呼ぶに相応しいものが秘められているのではないのでしょうか。そんな問いかけをもって、今回私は改めてこのイエシュアのたとえ話の一つである「種蒔きのたとえ」と向き合ってみました。

1. 種

【新改訳 2017】

マタイ 13:3 「見よ。種を蒔く人が種蒔きに出かけた。

まず種はゼラ(צֶרָא)、他に「子孫」という意味もあることから、この種は人を指すと考えられます。

創世記 1:11 神は仰せられた。「地は植物を、種のできる草や、種の入った実を結ぶ果樹を、種類ごとに地の上に芽生えさせよ。」すると、そのようになった。

ゼラは本来、繁殖、増殖を意味し、神は人に「生めよ。増えよ。地に満ちよ。(創世記 1:28)」と命ぜられたことにもつながります。つまり種を蒔く人は神、そして種は人（複数）を指すと考えられます。

2. 道端

【新改訳 2017】

マタイ 13:4 蒔いていると、種がいくつか道端に落ちた。すると鳥が来て食べてしまった。

次に「道端（道）」デレク(דֶּרֶךְ)は本来、エデンにあったいのちの木への道を示します。

創世記 3:24 こうして神は人を追放し、いのちの木への道を守るために、ケルビムと、輪を描いて回る炎の剣をエデンの園の東に置かれた。

人はエデンから追放され、この「道」からも離されました。つまり道端で鳥に食べられた種とは、エデンから追放されたアダムとエバを指すと考えられます。

3. 岩地

【新改訳 2017】

マタイ 13:5 また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったので、すぐに芽を出した。

13:6 しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。

そして「岩地（岩）」セラ(צלר)は本来、荒野で神がモーセに命じて水を湧き出させた岩を指します。

民数記 20:8 「杖を取れ。あなたとあなたの兄弟アロンは、会衆を集めよ。あなたがたが彼らの目の前で岩に命じれば、岩は水を出す。彼らのために岩から水を出して、会衆とその家畜に飲ませよ。」

モーセは神の命に背いてこの岩を打って水を出しました。イスラエルに水を与えるために打たれた岩、これはイエシュアを指すと考えられます。イエシュアが初臨によってイスラエルに来られた時、多くの者が信じましたが、イエシュアが十字架にかかれる時には、弟子たちまでもが去って行きました。それが「すぐに芽を出した。しかし、日が昇ると焼けて、根がないために枯れてしまった。」というたとえに表されていると考えられます。

4. 茨の間

【新改訳 2017】

マタイ 13:7 また、別の種は茨の間に落ちたが、茨が伸びてふさいでしまった。

「茨」はコーツ(קוצ)で、本来これは人の罪の結果生まれた植物として、大地の呪いを指しています。

創世記

3:17 また、人に言われた。「あなたが妻の声に従い、食べてはならないとわたしが命じておいた木から食べたので、大地は、あなたのゆえにのろわれる。あなたは一生の間、苦しんでそこから食を得ることになる。

3:18 大地は、あなたに対して茨とあざみを生えさせ、あなたは野の草を食べる。

後述します「良い地」を神の国の完成と捉え、その関連性からこの「茨の間」は、罪の結果としての苦痛と嘆きに満ちた今のこの世界、やがて滅びゆく今のこの時代を指すと考えられます。

5. 良い地

【新改訳 2017】

マタイ 13:8 また、別の種は良い地に落ちて実を結び、あるものは百倍、あるものは六十倍、あるものは三十倍になった。

そして「良い地」はこの地上に完成される「天の御国」神の国を表すと考えられます。神はアブラハムのゼラ「子孫」を地のちりのように増やす（創世記 13:16）と仰せられました。よってこの百倍、六十倍、三十倍の実はイスラエルの民を指すと考えられます。

このように、この「種蒔きのたとえ」は聖書の物語全体、エデンから地上における神の国の完成までという神のご計画全体を表したものであるとも捉えることができます。そしてこれは最初イエシュアを通してイスラエルの民、ユダヤ人に語られました。もしこのように解釈するならば、このたとえは人の信仰のなさを責めるものではなく、また努力して成長しなさいと励ますものでもなく、神のご計画が表された、イスラエルの民とそれにつながる者たち（異邦人）にとって良い知らせ、福音となり、その完成、成就を待ち望ませるようになります。イエシュアのたとえに隠された「天の御国の奥義」とは、このように天の御国、神の国がどのようにして成っていくのかという神のご計画を示したものであると考えられます。